

イーストスプリング・ フィリピン株式オープン

追加型投信／海外／株式

受益者のみなさまへ

平素は格別のお引立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、主にフィリピンの企業の株式等を投資対象とする投資信託証券に投資を行い、信託財産の成長を目指して運用を行います。当作成対象期間につきましてもこれに沿った運用を行ってまいりました。ここに、その運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜われますよう、お願い申し上げます。

作成対象期間 2023年3月8日～2023年9月7日

第22期 2023年9月7日決算

日経新聞掲載名: フィリピン株

第22期末	基準価額	8,896円
	純資産総額	1,255百万円
第22期	騰落率	-0.6%
	分配金合計	0円

(注)騰落率は分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

〒100-6905

東京都千代田区丸の内2-6-1丸の内パークビルディング

<https://www.eastspring.co.jp/>

【お問い合わせ先】

電話番号：03-5224-3400

(受付時間は営業日の午前9時から午後5時まで)

当ファンドは、信託約款において運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供することを定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順で閲覧、ダウンロードすることができます。なお、書面をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

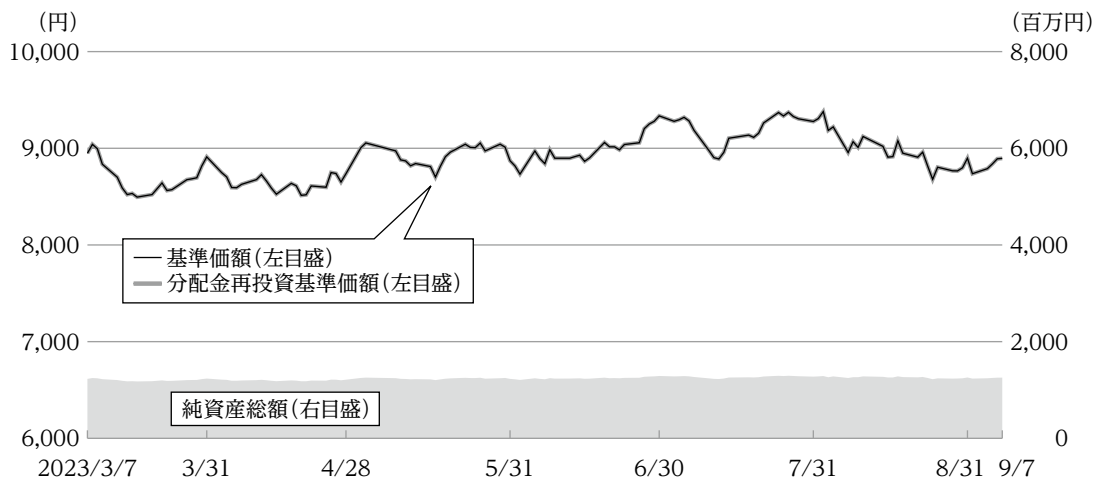
<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

ホームページにアクセス ⇒ 「ファンド情報」を選択 ⇒ ファンド名を選択 ⇒ 「目論見書・月報・運用報告書等」の「運用報告書(全体版)」を選択

運用経過

基準価額等の推移について

(2023年3月8日～2023年9月7日)



第22期首	8,948円
第22期末	8,896円 (既払分配金0円)
騰落率	-0.6% (分配金再投資ベース)

(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様1人ひとりの損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、期首の値が基準価額と同一になるように指数化しております。

基準価額の主な変動要因

当期の基準価額は下落しました。

下落要因



・投資対象ファンドを通じて保有する株式が下落したこと。

1 万口当たりの費用明細

(2023年3月8日～2023年9月7日)

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	62円	0.691%	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 期中の平均基準価額は、9,004円です。
(投信会社)	(24)	(0.265)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(37)	(0.415)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、 購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(1)	(0.011)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	4	0.040	(b) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
(監査費用)	(4)	(0.039)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他1)	(0)	(0.000)	信託管理事務に係る手数料
(その他)	(0)	(0.000)	余資運用に係る費用 (マイナス金利相当額)
合計	66	0.731	

(注1) 期中の費用 (消費税等のかかるものは消費税等を含む) は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

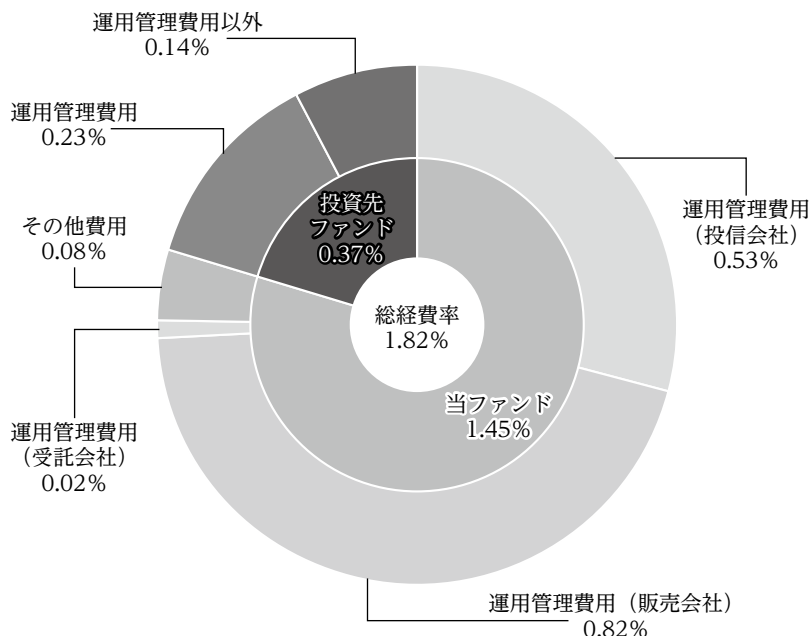
(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額 (円未満の端数を含む) を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注4) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(参考情報)

■総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.82%です。



総経費率 (①+②+③)	1.82%
①当ファンドの費用の比率	1.45%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.23%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.14%

(注) ①の費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移について (2018年9月7日～2023年9月7日)



(注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについては、お客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様1人ひとりの損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、2018年9月7日の値が基準価額と同一になるように指数化しております。

決算日	2018/9/7	2019/9/9	2020/9/7	2021/9/7	2022/9/7	2023/9/7
基準価額 (円)	8,529	8,908	6,842	8,177	9,089	8,896
期間分配金合計 (税引前) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額の騰落率(%)	—	4.4	-23.2	19.5	11.2	-2.1
純資産総額 (百万円)	2,314	2,264	1,437	1,339	1,214	1,255

*当ファンドにおいては、運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

フィリピン株式市場

当期のフィリピン株式市場は下落しました。期初から2023年3月中旬にかけては、米シリコンバレーバンクの破綻などを受けて世界的に金融システム不安が高まる中、フィリピン株式市場は下落しました。その後はフィリピン企業の2023年1－3月期決算が好調だったことや、中央銀行による政策金利の据え置きなどの好材料はあったものの、中国経済の低迷などの悪材料から株価はレンジ内で推移しました。しかし、8月以降は米長期金利の一段の上昇や4－6月期の実質国内総生産（GDP）成長率が市場予想を下回ったことを受けてペソ安が進み、フィリピン株式市場は下落しました。

為替市場

フィリピンペソは、通期で米ドルに対して下落しました。期初から2023年3月末にかけては、世界的な金融システム不安などを背景にペソは上昇しましたが、5月末にかけては米国の債務上限問題などから米長期金利が上昇する中で下落しました。その後はインフレの落ち着きなどを受けてペソは7月半ばにかけて再び上昇しましたが、8月以降期末にかけては、米長期金利の上昇やフィリピン国内の経済指標の悪化などから軟調な展開となりました。

一方、対円ではペソは通期で上昇しました。日銀がイールドカーブ・コントロール（長短金利操作）政策の柔軟化などを実施し、日本国債の利回りは上昇しましたが、結局日米金利差の拡大が続いたことなどから、円は対米ドルで下落しました。これを受けて円安ペソ高が進みました。

国内債券市場

日本国債利回りは2023年3月半ばに欧米の金融不安を受けて一時急低下（価格は上昇）しましたが、植田新日銀総裁就任後の日銀の政策修正観測から4月中旬にかけて上昇に転じました。しかし、4月下旬の日銀の金融政策決定会合で早期の政策修正観測が後退し、再び利回りは0.4%を下回る水準まで低下しました。7月末の金融政策決定会合でイールドカーブ・コントロール政策が柔軟化されたことから、期末にかけては0.6%を超える水準で推移しました。

ポートフォリオについて

当ファンド

主要な投資対象の一つであるイーストスプリング・インベストメンツ・フィリピン・エクイティ・ファンド クラスJ（以下「フィリピン・エクイティ」といいます。）の組入比率を高位に保つよう運用しました。

フィリピン・エクイティ

フィリピン株式を主要投資対象とし、長期的な成長を目指した運用を行いました。個別銘柄調査とバリュエーションを重視し、市場全体およびセクター内で割安に評価されている銘柄を中心に投資を行い、割高となった銘柄の組入れを減らしました。

当期は景気拡大に伴う貸出の伸びや政策金利

の引き上げによる利ざやの拡大などから株価が上昇した銀行BDO Unibankなどの保有がプラス要因となりました。一方、2023年4-6月期のGDP成長率などの景気指標が市場予想を下回ったことなどからショッピングモールにおける個人消費の先行きへの不透明感が強まり株価が下落した不動産会社SM Prime Holdingsなどの保有はマイナス要因となりました。

イーストスプリング国内債券ファンド (国債) 追加型I (適格機関投資家向け)

主としてデュレーションをコントロールすることによって、ベンチマークであるICE BofA 国債インデックス（1-10年債）を中長期的に上回ることを目指して運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドにおいては、運用の基本方針に適合した、公表されている指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

分配金額は、基準価額水準・市況動向等を勘案して、以下の通りとさせていただきます。なお、留保益の運用につきましては、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳（1万口当たり、税引前）

項目	第22期	
	2023年3月8日 ~2023年9月7日	
当期分配金 (円)	—	
(対基準価額比率) (%)	—	
当期の収益 (円)	—	
当期の収益以外 (円)	—	
翌期繰越分配対象額 (円)	1,423	

(注1)「当期の収益」と「当期の収益以外」は円未満は切捨てて表示しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

(注2)当期分配金の「対基準価額比率」は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注3)－印は該当がないことを示しています。

今後の運用方針について

当ファンド

主要な投資対象の一つであるフィリピン・エクイティの組入比率を高位に保つことを基本とします。

フィリピン・エクイティ

フィリピンのインフレ率は2023年8月に前年同月比+5.3%となり、コメ価格などの急激な値上がりを受けて2023年2月から続いていた低下基調から反転しました。中央銀行は通貨安やインフレリスクを懸念し、現時点では利下げは視野に入っていないと表明しました。輸出減やインフレ高進による低所得者層の消費の落ち込みなどを背景に2023年4-6月期のGDP成長率が市場予想を下回ったことから、今後財政支出が拡大することが見込まれます。また、インフラプロジェクトの進展、米国の金融政策の転換、インフレの落ち着き

や通貨ペソの安定などが契機となり、株式市場の再評価も期待されます。セクター別では、拡大が見込まれる消費関連、住宅需要の改善が見られる不動産、安定したキャッシュ創出力と設備投資の抑制による高配当が期待できる通信などを強気に見ています。引き続き投資環境の変化に対する市場の反応などに留意しつつ、下落局面では割安となったファンダメンタルズの強固な優良銘柄に選別投資を行います。

イーストスプリング国内債券ファンド (国債) 追加型I (適格機関投資家向け)

今後もファンダメンタルズ分析、金利動向予測、イールドカーブ分析等を行い、ベンチマークであるICE BofA 国債インデックス(1-10年債)を中長期的に上回ることを目指した運用を行っていく所存です。

お知らせ

該当事項はありません。

当ファンドの概要

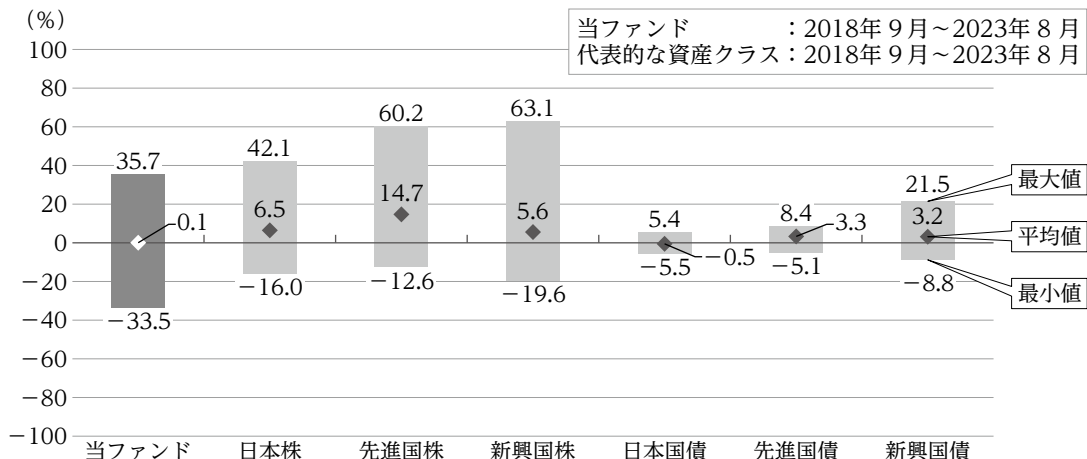
商品分類	追加型投信／海外／株式
信託期間	無期限(2012年9月28日設定)
運用方針	主にフィリピンの企業の株式等を投資対象とする投資信託証券に投資を行い、信託財産の成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	外国投資法人「イーストスプリング・インベストメンツ - フィリピン・エクイティ・ファンド クラスJ」の投資証券（米ドル建て）およびわが国の証券投資信託「イーストスプリング国内債券ファンド（国債）追加型I（適格機関投資家向け）」の受益証券（振替受益権を含みます。）を主要投資対象とします。
運用方法	以下の投資制限のもと運用を行います。 <ul style="list-style-type: none">・投資信託証券への投資割合には制限を設けません。・外貨建資産への投資割合には制限を設けません。・株式への直接投資は行いません。
分配方針	毎決算時（毎年3月7日および9月7日。休業日の場合は翌営業日。）に、基準価額水準および市況動向等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合は、分配を行わないことがあります。

指数に関して

当ファンドの投資対象である「イーストスプリング国内債券ファンド（国債）追加型I（適格機関投資家向け）」のベンチマーク（ICE BofA 国債インデックス（1-10年債））について

ICEデータ・サービスおよびその関連会社は、提供するインデックスデータに関してその継続性、正確性、完全性を保証するものではなく、当該データ提供に係り発生し得る損害についてもその事由の如何を問わず責任を負うものではありません。

(参考情報) 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※当ファンドと代表的な資産クラスについて、上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を表示し、定量的に比較できるように作成したものです。当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

※すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

※当ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)	株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社 (以下「J P X」という。) の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など TOPIX に関するすべての権利・ノウハウ及び TOPIX に係る商標又は商標に関するすべての権利は J P X が有します。J P X は、TOPIX の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。
先進国株	MSCI コクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース)	MSCI Inc. が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は MSCI Inc. に帰属します。また MSCI Inc. は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース)	
日本国債	NOMURA-BPI 国債	野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。
先進国債	J P モルガン G B I グローバル (除く日本、ヘッジなし・円ベース)	J.P. Morgan Securities LLC が算出、公表しているインデックスであり、著作権、知的財産権は J.P. Morgan Securities LLC に帰属します。
新興国債	J P モルガン G B I - E M グローバル・ダイバーシファイド (円ベース)	

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しています。「円換算ベース」は、米ドルベースの指数を当社が円換算したものです。

ファンドデータ

当ファンドの組入資産の内容

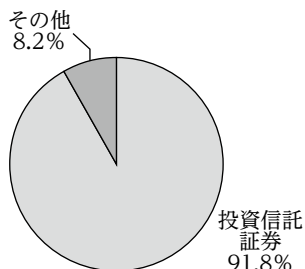
組入ファンド

(組入銘柄数：2銘柄)

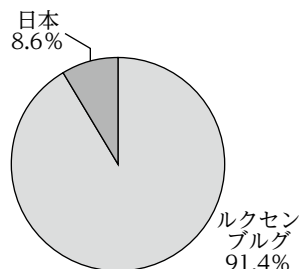
ファンド名	第22期末 2023年9月7日
イーストスプリング・インベストメンツ - フィリピン・エクイティ・ファンド クラスJ	91.4%
イーストスプリング国内債券ファンド（国債）追加型 I（適格機関投資家向け）	0.4%

(注)比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

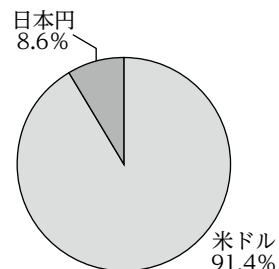
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注)比率は当ファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

純資産等

項目	第22期末 2023年9月7日
純資産総額 (円)	1,255,308,042
受益権総口数 (口)	1,411,123,566
1万口当たり基準価額 (円)	8,896

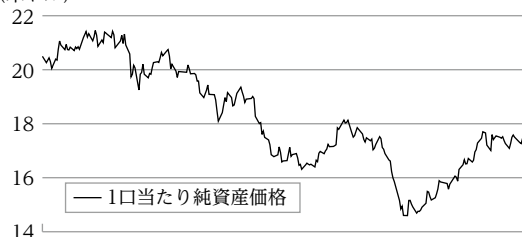
*当期中において追加設定元本額は155,086,105円、一部解約元本額は118,236,433円です。

組入上位ファンドの概要

<イーストスプリング・インベストメンツ - フィリピン・エクイティ・ファンド クラスJ>

基準価額(1口当たり純資産価格)の推移

(米ドル)



2021/12/31

2022/12/31

1万口当たりの費用明細

(2022年1月1日~2022年12月31日)

当該期間のAnnual Report (監査済み) には、1万口当たりの費用明細が開示されていないため、記載できません。

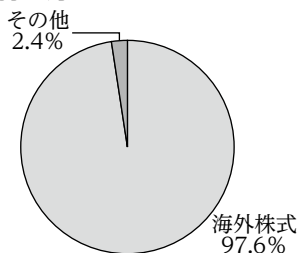
以下は、イーストスプリング・インベストメンツ - フィリピン・エクイティ・ファンドの内容です。

組入上位10銘柄 (組入銘柄数：31銘柄)

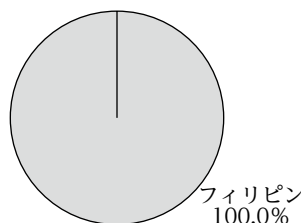
(2022年12月31日現在)

銘柄名	業種	国・地域	比率
SM Prime Holdings Inc	不動産	フィリピン	9.6%
SM Investments Corp	資本財	フィリピン	9.4%
BDO Unibank Inc	銀行	フィリピン	7.5%
Bank of the Philippine Islands	銀行	フィリピン	7.0%
Ayala Land Inc	不動産	フィリピン	6.5%
Ayala Corp	資本財	フィリピン	4.9%
International Container Terminal Services Inc	運輸	フィリピン	4.8%
Universal Robina Corp	食品・飲料・タバコ	フィリピン	4.5%
JG Summit Holdings Inc	資本財	フィリピン	4.4%
Metropolitan Bank & Trust Co	銀行	フィリピン	4.3%

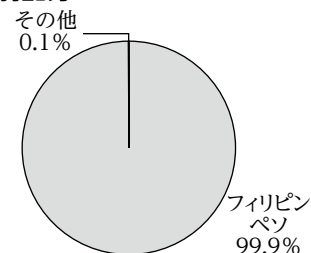
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注1) 組入ファンドのデータは、当社で入手可能な時点のもの (監査済みおよび同時点の関連データを含む) を使用しています。

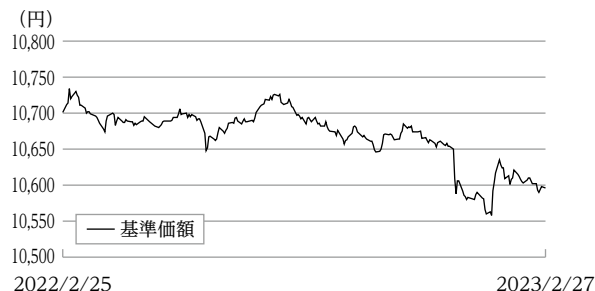
(注2) 組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産に対する割合、国別配分の比率は組入銘柄の総額に対する割合です。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書 (全体版) でご覧いただけます。

組入上位ファンドの概要

<イーストスプリング国内債券ファンド（国債）追加型 I（適格機関投資家向け）>

基準価額の推移



1万口当たりの費用明細

(2022年2月26日～2023年2月27日)

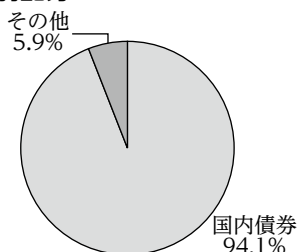
項目	金額	比率
(a) 信託報酬	24円	0.221%
(投信会社)	(15)	(0.144)
(販売会社)	(2)	(0.022)
(受託会社)	(6)	(0.055)
(b) その他費用	2	0.014
(監査費用)	(2)	(0.014)
合計	26	0.235

組入上位10銘柄 (組入銘柄数：10銘柄)

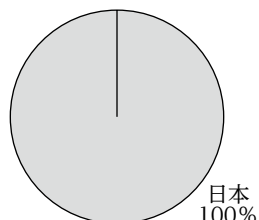
(2023年2月27日現在)

銘柄名	種別	利率	償還日	国・地域	比率
第91回利付国債（20年）	国債	2.3%	2026/9/20	日本	21.3%
第359回利付国債（10年）	国債	0.1%	2030/6/20	日本	12.8%
第117回利付国債（20年）	国債	2.1%	2030/3/20	日本	12.6%
第87回利付国債（20年）	国債	2.2%	2026/3/20	日本	8.6%
第354回利付国債（10年）	国債	0.1%	2029/3/20	日本	8.5%
第63回利付国債（20年）	国債	1.8%	2023/6/20	日本	7.4%
第351回利付国債（10年）	国債	0.1%	2028/6/20	日本	7.2%
第67回利付国債（20年）	国債	1.9%	2024/3/20	日本	6.7%
第80回利付国債（20年）	国債	2.1%	2025/6/20	日本	5.8%
第75回利付国債（20年）	国債	2.1%	2025/3/20	日本	3.1%

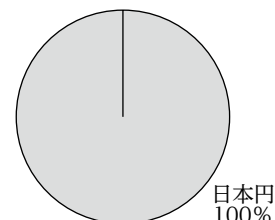
資産別配分



国別配分



通貨別配分



(注1) 1万口当たりの費用明細の項目の概要および注記については、2ページの「1万口当たりの費用明細」の記載をご参照ください。

(注2) 組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産総額に対する割合、国別配分の比率は組入銘柄の総額に対する割合です。

* 組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）でご覧いただけます。